

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174600908		
法人名	(株)オファイス21		
事業所名	グループホームはなえみ		
所在地	帯広市東6条南13丁目1番地		
自己評価作成日	平成31年1月16日	評価結果市町村受理日	平成31年2月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2018\\_02\\_2\\_kani=true&JigyosyoCd=0174600908-00&PrefCd=01&VersionCd=022](http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2018_02_2_kani=true&JigyosyoCd=0174600908-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal		
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501		
訪問調査日	平成31年2月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は平屋建てで2ユニットを運営しており、各ユニットは玄関横の渡り廊下でつながっています。付近には、小中学校や食品スーパー、ドラッグストア、クリーニング店、美容室等があり、利用者の方が買い物や髪カットに出かけたりします。町内会に入会しており、町内会行事に参加しています。中学校の職業体験の受け入れをしたり、近くの保育園の運動会や発表会の総練習を見に行ったり、幼稚園の園児さんの訪問があったりと、地域の方との交流があります。月1度の行事や週1回の趣味の会等で、交流を兼ねてユニット合同で行ったり、年1度の敬老会では、ご家族の方をお呼びしお祝いの席を受けています。利用者の方が喜んでいただける事を考慮しながら、職員が企画して行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームはなえみ」は法人の事業趣意を根幹とする運営理念を掲げ、開設から14年目を迎える事業所です。利用者へより良いケアサービスを行うために、OJTを自己分析シートなどを用いて実施しており、職員の精神的・技術的スキルアップを図っています。地域との関係では、児童福祉施設や教育機関と連携した取り組みや地元の夏祭りを存分に楽しむなど、地域との豊かな相互交流が実現しています。家族を交えた敬老会は毎年盛大に行われ、今年度は結婚式場を借り、利用者は晴れ着姿でお祝いの席に参加しています。職員のアイデア満載の定期的に行われるユニット合同の趣味の会は文武両道の多様な内容を用意し、利用者に人気のレクリエーションとなっています。外出支援は個別外出に力を入れ、本人の希望に積極的に応えています。清潔感や家庭的で温かみのある共用空間作りを心がけるなど、良質のサービスの提供に努めています。利用者の笑顔を何より大切にす職員の弛まぬ努力を感じさせる事業所です。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印	↓該当するものに○印		↓該当するものに○印	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はいつでも確認できるように、事務所の壁に貼り付けてあります。職場内研修等で共有し、常に意識しながら、利用者とかかわっている。	理念については、研修会を開催したり、申し送りの際に心がけています。玄関に理念を掲示して、文言を見たときにふと我にかえる機会となっているなど、事業所全体で意識づけを行っています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、町内会行事にも参加させていただき、地域の方と交流をしています。近くの幼稚園や保育園との交流も行っています。近くのお店での買い物や美容室も行きます。	職員と利用者が町内清掃に参加したり、町内会夏祭りの催し物や出店を楽しんでいます。幼稚園児の訪問や保育所からの発表会総練習の見学の招待、また、中学生の職場体験学習を受け入れています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の行事に参加したり、ホームの避難訓練等に町内会の方に参加していただいたり、中学生の職場体験学習を受け入れたりと、利用者との交流を通じて、認知症の方への理解が深まるように取り組んでいます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	会議には、町内会の方、民生委員、地域包括支援センターの方、ご家族の方々、他多くの方に参加していただくように取り組んでいます。会議で出た意見は、職員会議で検討しサービス向上に活かすように取り組んでいます。	10月の運営推進会議では職場体験学習に参加した中学生がメンバーとして出席しています。今年度の災害停電を受けて、対策の見直しなどが話し合われています。今後、家族へ議事録の送付を検討する意向です。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時にその都度連絡、相談を行っています。	市の担当者から必要な案件について意見を仰いだり、事故報告の際に助言や指導を得ています。地域包括支援センター主催の地域ケア会議に出席し、事例検討や情報を共有するなどして連携しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会にて意見を出し合い、それについて、全職員で考える時間を設け、身体拘束のないケアに取り組んでいます。玄関の施錠については、利用者の状況を見ながら、解放する時間を増やしています。	身体拘束廃止に関する指針を定めています。身体拘束廃止委員会の定期開催や年に2回の内部研修を行っています。職員アンケートを実施して、自分の思うグレーゾーンについて考えてもらい、適切なケアを確認する機会を確保しています。	内部研修に外部講師を招くなどして、これらに係る学習を更に深めたいとの考えを示していますので、その実現に期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会に参加し、その内容をホーム内の勉強会で全職員が学ぶ機会を作っています。管理者、主任、副主任は、職員が利用者との間でストレスを抱えていないかコミュニケーションを取り把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用している方がいるので、全職員がその制度を理解できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の重要事項の説明には、十分に時間をかけて行い、ご家族の要望をお聞きし納得していただいてから署名捺印をいただいています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見をお聞きしたりし、コミュニケーションを取りながら、意見を言っていたけような関係づくりを心掛けています。玄関には、アイデアボックスを設置し、いろいろな形で意見や要望が表現できるように取り組んでいます。	利用者の要望を受けて一緒にデパートのおめざフェアや洋服を買いに出かけ、髪染めなどの希望にも職員が対応しています。本人の好きなおやつと一緒に買いに行きたくしたいなど、家族の希望にも応えています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、毎日のミーティング、年1度のOJTチェック評価による面談を行っています。職員からの意見を検討し反映させている。	運営者は可能な限り職員会議に出席し、事業や福祉の情報を伝えています。職員との個別面談は管理者と主任が行っています。業務について職員から意見を聞いたり、希望休制度を設けています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者、主任は常に職員の動向を代表者に報告し、職員の能力や職場環境について話し合い、職員一人一人に合わせた仕事配分や条件をその都度見直しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は個々の力量に合わせて外部の研修に参加し、ホーム内で、学習会として全職員が学べる機会を受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	同じ町内会のグループホームと災害時の協力支援の契約を結んでいます。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談し、本人が困っている事や要望をお聞きし、入居前の情報として職員間で共有し、その方らしく過ごせるように心掛けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っている事や要望を、時間をかけてお聞きし、信頼関係が築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族や本人の状況を詳しくお聞きし、求めていることを見極め、必要なサービスを受けられるように、他のサービスを含めて検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	献立の相談をしたり、食事の配膳や掃除、洗濯のたたみ等、一人ひとりができる事や役割的な事を見つけ一緒に取り組んでいます。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日頃の様子を報告したり、一部の行事に参加や通院等に同行していただく等、協力していただきながら、ご本人を支える関係性を築いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や馴染みの方の訪問があり、ゆっくりと過ごしていただけるように配慮しています。電話が来る時もあります。	利用者の以前の職場の友人や親族の方々の訪問があり、その都度丁寧に対応しています。電話の取り次ぎや手紙のやり取り、家族宅への外泊、また、選挙へ同行するなどこれまでの生活の継続をサポートしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事やレクリエーションを通じて交流しています。トラブル等がある時は、席を配置替をしたり、模様替えをしたりし、気分転換になるように配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要があれば、いつでも対応できます。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話等から、その方の思いをくみ取り、思いが実現できるように努めています。言葉での表現が難しい方は、それまでの生活歴やご家族と相談のもとその方らしい生活ができるように検討しています。	利用者一人ひとりの思いや希望を把握した場合は、個人記録に記し、職員間で共有しています。把握が困難な場合は、家族から意見を聞いたり、生活に無理がないかなど、日々、検討しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談で聞き取りしたり、その後も本人、ご家族に聞いた事を記録にのこし、全職員が把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に日常の細かな変化を記録し、職員税全員が把握できるように努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員でモニタリングし、それぞれの意見も反映させながら、介護計画を作成しています。	全職員が前回のケアプランについてシート記入をして検討するなど、今後のより良いケアのための作業を行い、基本的に6ヶ月毎に見直しが行われています。個人記録に詳細な情報を蓄積し、アセスメントやモニタリングの根拠としています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録に介護計画を表紙につけ、いつでも確認できるようにしています。日常の変化を記録に残し、職員間で情報共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化や要望に対応し、その時に必要な支援ができるように努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の公園に行ったり、美容室や買い物に行ったりと、施設内だけでなく地域にある資源が利用できるように努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療提携している医療機関で月1回の往診があります。週1回訪問看護の訪問があります。他の医療機関を受診する時は、ご家族の希望により職員が同行したり、日常の様子を手紙に書き、スムーズに受診ができるように支援しています。	契約時に家族、本人と相談してかかりつけ医を決めています。定期的な内科医の往診や訪問看護、必要時に歯科の往診の態勢があります。「通院記録」は利用者個別に時系列で記され、受診後は薬の変更を含め、特別な変化があった際に家族へ連絡しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週1回訪問し、利用者の身体状況を確認、相談ができます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、必要な情報を速やかに提供しています。医療機関、ご家族とも連絡を取りながら、退院後の受け入れ準備を整えています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時に、ホームの看取りの指針の説明を行い、同意をいただいています。本人、ご家族の希望により、医療機関と訪問看護の協力で、看取りにも取り組んでいます。	契約時に「重度化した場合における看取りの指針」を説明し同意を得ています。重度化の支援については、家族の希望と医師の判断により対応しています。看取りに関する外部研修を受講した際は、職員会議内で伝達研修を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は普通救命講習に参加し、必要な知識を身に付けています。その職員は、その都度ホームでの勉強会で、全職員が学べるようにしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回春と秋に避難訓練を行っています。春は日中を想定し、町内会の方にも参加していただいています。秋は夜間を想定し、職員の緊急連絡網にて実際にホームに駆けつける訓練をしています。	年に2回、地震から火災が発生した想定で、昼間、夜間帯での避難訓練を実施しています。消防署、地域住民、消防設備会社の協力が得られています。既存のソーラー設備を事業所内で活用できるシステムに変更し対策を強化しています。	「災害はいつでもどこで起こるかわからない」という点に着目し、利用者の居場所を様々に想定した訓練を実施する意向ですので、その取り組みに期待します。

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の皆さんは、人生の先輩である事を第一に考え、敬語で対応しています。	人権尊重を理念に明示し、接遇に留意しています。OJTシートで職員のケアサービスを確認する仕組みがあります。ソフトウェアの導入に向け個人情報の管理、教育を進める事となっています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中から思いを聞き取る事や選択肢の中から自己決定できるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	一人ひとりのペースで希望に添うように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容、整髪、服装、お化粧品、ネイル等、その方らしさを大切に支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、季節感を取り入れ、利用者のリクエストを加えています。食事の下ごしらえや下膳等出来る事を一緒に行っています。	職員が1週間毎、利用者の意向を反映させ献立しています。戸外で焼肉をしたり、回転寿司やレストランでの外食、季節の行事食、敬老会には結婚式場でのパーティー食やお誕生日には本人の好きなメニューを提供しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表を作成し、摂取量の把握をしています。食事の形態等、その方に応じた対応をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれ、声をかけ促しています。必要に応じて、歯科受診や往診を受けています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	必要に応じてトイレに誘導したりし、トイレでの排泄を支援しています。	排泄チェック表の記録は必要な方のみ行い、利用者それぞれのパターンを把握し、定時や仕草を見てトイレ誘導しています。入居後にオムツから布パンツになり、排泄が自立したケースがあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜や乳製品等を取り入れ、自然な排便を促す取組をしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	希望があれば、すぐに対応できるようにしています。入浴の拒否がある方は、声のかけ方やタイミングを工夫し、納得して入浴できるように支援しています。	週2回以上、入浴出来るよう午前午後、曜日を問わず入浴を支援しています。職員は本人が満足できるよう湯加減や順番など、個々の希望に沿って対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や物音、湯たんぼや加湿器等、その時の状況により対応し、心地良く安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表を作成し、服薬変更等がすぐわかるように対応しています。薬内容のファイルは職員がすぐ確認できるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事や趣味の会を行っており、皆さんが楽しめる事を企画しています。お誕生日には、その方の希望に応じ、個別に対応しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、美容室、選挙、外食等、本人の希望を大切に対応しています。	天候の良い時期は毎日、散歩や椅子を並べて外気浴をしています。弁当持参での花見や美しいガーデン見学、町内会の夏祭りや保育所の発表会・運動会の総練習に招かれて出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	多額でなければ、持っている方もいますが、ほとんどの方は、事務所で預かっています。行事等で出かけた先で買い物をしたりと、自分で選び購入する大切さを支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、速やかに対応しています。趣味の会で、季節の便り(年賀状、暑中見舞い)を作成し、家族等に発送しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は清潔感を保ち、心地良く過ごせるように配慮しています。季節感を取り入れた、飾り物を利用者と一緒に行えるようにしています。	共用空間は明るく広い作りで清潔感があり、家庭的な装飾も施され温かみを感じられます。コーナ毎に1台ずつテレビを置き、見たい番組を好きな場所で鑑賞できるようにしています。エアコンが設置され、夏場、冬場の温度調節が可能です。ウッドデッキは洗濯物などを干すスペースとして有効に活用されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓席、ソファ席の位置等に工夫し、居心地の良い空間になるように配慮しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や家族の写真を壁に貼ったりと、家庭にいる雰囲気になるように工夫しています。	クローゼット、ナースコールなどが備えられ、重度化になり介護ベッドが必要な場合は事業所で対応しています。慣れ親しんだ家具類が持ち込まれ、壁には本人の手作り作品が飾られています。趣味のものが置かれ、自室で寛げる環境をサポートしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれ自ら行動し、それを支援できるように対応しています。建物内はバリアフリー、手すりを設置。居室の入口には目印、トイレや浴室にも明記している。		